

新トルドー内閣が発足



トルドー首相(右)と
マッギガン外務大臣。

二月二十八日に行なわれたカナダの総選挙は、自由党が圧勝して単独過半数の議席を獲得した。その結果、昨年五月の選挙で誕生したクラーク首相の進歩保守党政権は、カナダ史上一番の短命に終わり、前回の選挙で敗れるまで十一年間政権を担当していたトルドー氏が首相に返り咲いた。トルドー新首相は、三月三日に内閣を発足させ、経済、ケベック、対州関係など山積する問題に取り組みことになった。トルドー政権のもとでの初の議会(第三十二議会)は四月十四日に召集される。

選挙の結果は、自由党が二八二議席のうち一四六(前回は一一五)、進歩保守党が一〇三(同一三五)、新民主党が三二(同二六)の議席を得た。前回六議席をとり、進歩保守党政権に協力してきた社会信用党は、唯一の地盤であるケベック州で一議席も得られず、完敗した。(残り一議席は、ケベック州フロンテナック選挙区の社会信用党候補が選挙戦の途中に急死したため、三月二十四日に改めて選挙を行なって決めることになっている。)

な強さを示した。大西洋諸州(ノバ・スコシア、ニュー・ブランズウィック、プリンス・エドワード島、ニューファンドランド)で三十二議席のうち十九議席、最大の票田で決戦場ともいえるオンタリオ州でも九十五議席のうち五十二議席(前は三十二議席)を獲得した。しかし、オンタリオ以西の大平原三州(マニトバ、サスカチュワン、アルバータ)およびブリティッシュ・コロンビア州では、前回同様、わずかにマニトバ州で二議席を得ただけ。西部諸州の反自由党意識が、きわめて強いことが示された。

一方の進歩保守党は、オンタリオ州で前回の五十七議席から三十八議席へ、西部諸州で五十八議席から四十九議席へ、大西洋諸州で十八議席から十三議席へ減った。またケベック州では、わずかに一議席しかとれなかった。

新民主党はブリティッシュ・コロンビア州を中心に票をのばし、議席数を前回の二十六から三十二に増やした。

自由党の勝利は、「クラーク政権の財政立て直しを重視するあまりの増税、エネルギー価格の大幅引き上げ、公約を無視した新年度予算の編成などに(対する)国民の反発」(日本経済新聞)、緊張した国際情勢にクラーク政権がうまく対応できると国民の不安、あるいはクラーク氏自身の指導者としての人気の低下などが原因といわれている。

二七二日ぶりに返り咲いたトルドー首相は、今年六〇才。昨春秋、自由党党首の座を退くと表明していたが、クラーク

内閣に対する不信任案が通り、総選挙が行なわれることになったため、辞意をとり下げて選挙戦に臨んだ。選挙期間中、「首相になっても、二、三、または四年ぐらいで後継者にバトンタッチしたい」との希望を明らかにしている。

これでトルドー政権は通算四期目となるが、経済など多難な問題を抱え、厳しい出発となった。まず当面するのは、クラーク政権の命取りとなった国内の石油価格問題、六月に予定されているケベックの州民投票や、長年の懸案である全国的にもっとバランスのとれた議会構成への改革あるいは連邦および州権限の再検討などを中心とする憲法改正問題、一九八〇年度予算の承認、新銀行法の承認、主戦闘機の決定、オリンピック大会ボイコット問題など。自由党が選挙期間中に行なった主な公約は、①今年の石油価格引き上げをバレル当たり四ドル以内にとどめ②石油価格の上昇で生じる産油州の収入増に対する連邦政府のシェアを引き上

選挙結果 (カッコ内は前回)

自由党	一四六(一一五)
進歩保守党	一〇三(一三五)
新民主党	三二(二六)
社会信用党	〇(六)

げる③大西洋諸州へのびる天然ガス・パイプラインの建設を急ぐ④石油公団ペトロ・カナダを強化・拡大する⑤(現在七五パーセントも外国企業に支配されている)エネルギー部門を、少なくとも五〇パーセントまでカナダ化する⑥小麦の輸送をスピードアップするため、今後八年

主な関係

首相	ピエール・トルドー
副首相兼蔵相	アラン・マケツカン
運輸相	ジャン＝ルック・ベパン
法相兼検事総長	ジャン・クレチエン
農相	ユジーン・ウェーラン
通産相	ハーバート・グレイ
エネルギー相	マーク・ラロンド
漁業・大洋相	ロメオ・レブラン
科学技術相	ジョン・ロバーツ
外相	マーク・マッギガン

間にウイニペグとバンクーバー間のCN(カナディアン・ナショナル)線を複線化する⑦外国投資審査庁を強化し、国内の大手外国企業が輸出振興などの点でカナダの利益となっているか定期的に調査できるようにし、また資産のカナダ化を図ろうとする国内企業に政府保証の融資ができるようにする——などである。そのほか、オリンピックのボイコットはほとんどの先進工業諸国が賛成ならば支持する、ソ連の拡大主義を阻止する外交政策をとる、沿岸の海底資源に対する支配権は州が握っているかどうかについて裁判所に判断させる、などをあげている。

三月三日に発足したトルドー内閣は全員で三十三人。蔵相に前外相で第六回加閣僚会議(一九七五年)に來日したアラン・マケツカン氏、アルバータ州など産油州との石油価格交渉で重要な役割を果たすことになるエネルギー大臣にマーク・ラロンド氏、また外務大臣にはウィンザー大学で法学部長をしたこともあるマーク・マッギガン氏が就任した。